



2024年12月13日

日本鉄道労働組合連合会

JR九州連合第34回定期大会

労使の信頼関係を構築し、安全・安心で
将来に希望が持てるJR九州グループを創造しよう！

JR九州グループ労働組合連合会（JR九州連合）は11月26日、福岡市内で第34回定期大会を開催し、向こう1年間の活動方針を決定するとともに、新年度の役員体制を確立した。

幹事会を代表してあいさつした吉田祥司会長（JR連合副会長・JR九州労組中央執行委員長）は、安全の確立、組織強化・拡大、労働条件の改善、政策課題の解決にむけた取り組みについて所見を述べ、課題提起するとともに、JR九州高速船での不安全事象に対しては「労働組合としても反省し、JR九州グループ全体での安全意識のさらなる向上に努めていく」との決意を示した。



JR九州連合 吉田会長

JR連合からは、荻山市朗会長と住吉一家労働政策局長（グループ労組担当）が出席し、代表してあいさつした荻山会長は、安全の確立、春季生活闘争を取り巻く情勢、組織強化・拡大、政治・政策の取り組みなど最近の情勢を報告するとともに、ホテル事業が企業再編・組織再編の渦中にあることも踏まえ、「労働組合は現場の意見を集約して会社と議論し、労働者の経営参加を実現できる民主主義の基盤となる組織である」と労働組合の必要性を強調した。



JR連合 荻山会長

議事では、鎗光俊勝事務局長（JR九州労組中央執行副委員長）から活動経過報告や活動方針（案）などが提起され、代議員からの質疑、鎗光事務局長の総括答弁を経て全議案が満場一致で採択された。また、役員選出では、再任した吉田会長をはじめとする22名の新体制が確認された。

大会前に開催した学習会では、JR連合がJR関係労働者にとって相応しい働き方と具体的な目標を展望して本年6月に策定した「中期労働政策ビジョン2024-2028」について理解を深めた。

説明した住吉労働政策局長は、JR産業の最大の課題は、「人財の確保・定着であり、将来にわたり誇りを持ち、希望を持って働き続けることが出来る産業に発展させるため、本ビジョンの目標を着実に具現化しよう」と訴えた。

